

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	ンチシ県母子保健関連施設整備事業
(2) 贈与契約締結日 及び事業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 贈与契約締結日：2015年3月11日</li> <li>・ 事業期間：＜今次＞2015年3月11日～2015年12月10日</li> <li>＜全体＞2013年3月11日～2015年12月10日（33カ月間）</li> </ul>
(3) 供与限度額 及び実績（返還額）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 供与限度額：33,909,678円</li> <li>・ 総支出：32,682,762円（返還額：1,226,916円、利息0円含む）</li> </ul>
(4) 団体名・連絡先、事 業担当者名	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 団体名：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン</li> <li>(イ) 電話：03-5334-5357</li> <li>(ウ) F A X：03-5334-5359</li> <li>(エ) E-mail：atsuko_murai@worldvision.or.jp</li> <li>(オ) 事業担当者名：村井 厚子</li> </ul>
(5) 事業変更の有無	<p>【第3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 申請日：2015年3月31日 承認日：2015年5月13日 施工管理会社へ建設モニタリングを委託するため、団体内のエンジニアを想定し予算計上した現地スタッフ人件費エンジニア分を資材購入費に移行</li> <li>(イ) 報告日：2015年6月10日 本部スタッフ（経理担当）の変更</li> <li>(ウ) 報告日：2015年7月6日 現地事業統括プロジェクト・マネージャーの変更</li> <li>(エ) 報告日：2015年8月12日 現地事業統括プロジェクト・マネージャーの変更</li> <li>(オ) 報告日：2015年8月31日 本部スタッフ（事業担当）国内プロジェクト調整員の変更</li> <li>(カ) 報告日：2015年10月6日 カンゴロワ・ヘルスセンター全体の電気工事及び焼却炉の設置</li> <li>(キ) 報告日：2015年10月6日 現地事業統括プロジェクト・マネージャーの変更</li> <li>(ク) 報告日：2015年10月30日 通気口及び待機所までの歩道設置に伴う、現地移動費の資材購入費への移行</li> </ul> <p>※【第1年次】【第2年次】の事業変更については、別添③活動詳細参照のこと</p>

## 2. 事業の概要と成果

### (1) 上位目標の達成度

上位目標「ンチシ県における妊産婦死亡率、乳幼児死亡率、罹患率および死亡率の低下」について、本事業が開始した2013年と終了した2015年との指標比較は以下のとおりである。

指標	2013年	2015年
妊産婦死亡率 (/100,000)	233	210
乳児死亡率 (/1,000)	36	14

※出典：ンチシ県保健省 (Ntchisi District Health Office)

妊産婦死亡率、乳児死亡率ともに低下傾向が見られた理由については、本事業で医療施設が整備されたことで、施設で出産する住民が増えたこと、産前・産後のケアが適切に実施できるようになったことが大きく寄与したと推察できる。

2015年11月、本事業支援実施4地域にて実施したワールド・ビジョンによる受益者への聞き取り（総計377名）では、出産時に医療従事者からアドバイスを受け、産後ケアを受けた母親が増えた（2013年26.7% → 2015年42.6%）。正しい授乳方法や突然の病気への対応（マラリヤや下痢等）など、母親たち自身が学び、日々の生活の中で実践するようになったことが貢献要因の1つと考えられる。計画指標として挙げていた「5歳未満児死亡率」のデータは入手できなかったが、本事業を通して医療施設整備を行ったことにより、乳幼児の健康改善にも大きく関係する産前・産後ケアに今後も注力していくことができる環境を整えられたことから、さらなる乳児死亡率及び罹患率の低下、また5歳未満児死亡率の低下にも寄与していくことが期待される。

上記から、本事業は上位目標の達成に向けてプラスの効果をもたらしている、と考えられる。

### (2) 事業内容

ンチシ県は、地形が険しく公共交通手段もないため、医療施設へのアクセスがきわめて悪い。加えて県内12の医療施設には、妊産婦（付添者を含め）が待機できる設備がなく、自宅での待機や自宅出産を選ぶ妊産婦が多かった。本事業では、医療施設および待機所（宿泊施設）を建設、整備し、安全に出産できる環境を整えることを目的とした。

#### 【第1年次】

- イ) 産科棟のない2地域に産科棟を建設する
- ロ) 医療施設に設備・器具を整備する
- ハ) 医療施設での出産を促すポスターの作成・配布
  - 産前健診の受診を促すカレンダー付ポスター 1,970枚
  - 産科棟での出産を促すポスター 1,827枚
  - 産後健診の受診を促すポスター 1,827枚

#### 【第2年次】

- イ) 既存の医療施設に安全なお産のための待機所を設置する
- ロ) 2地域で水道施設を建設・整備する

**【第3年次】**

- イ) 既存の医療施設に安全なお産のための待機所を設置する
- ロ) 産科棟に電気設備を設置する
- ハ) 焼却炉、歩道の整備

**(3) 達成された成果**

**【成果1】 産科関連設備の充実・改善**

県内の医療施設（県病院1カ所、ヘルスセンター11カ所）に、適切な産科ケアを実施する体制を整えるため、産科関連施設・設備の整備を行う。

指標	計画（変更後）	実施
完成した産科棟の数	2	2
完成した待機所の数	4	4
最低限必要な機具が設置された産科棟の数	2	2

**【成果2】 基礎的な医療関連施設の改善を通じた医療サービスの向上**  
 県内の医療施設の基礎的な設備およびそれに付随する設備の改善を通じて、ンチシ県の全体的な医療サービスの向上に貢献する。

指標	計画（変更後）	実施
整備した水道設備の数	2	2
ソーラー発電装置を設置した医療施設の数	1	1

プログラム目標「ンチシ県における妊産婦可能年齢の女性（対象者28,170名）及び2歳未満の子ども（同16,590名）の健康状態改善」について、本事業が開始した2013年と終了した2015年との指標比較は以下のとおりである。

指標	2013年	2015年
①全出産数に対する未熟児の割合	4.7%	4.8%
②全出産数に対する死産の割合	1.8%	1.8%
③資格のある助産師の介助を受けたお産の割合	74.0%	93.4%

※出典：ンチシ県保健省（Ntchisi District Health Office）

全出産数に対する未熟児の割合及び死産の割合には、大きな変化が見られなかった。一方で、資格のある助産師の介助を受けたお産の割合は74.0%から93.4%に上がり、ンチシ県の事業地では、妊産婦の多くが助産師の立ち合いのもと出産ができるようになったことを示している。

「健康状態改善」についての関連指標として、ワールド・ビジョン内部で実施した事業地での聞き取りを以下に示す。ここでは2歳未満児を対象とした予防接種率の増加、及び産後ケアを受けた母親が増加したことが認められた。ここには、第1年次に実施した啓発キャンペーン（後述、【成果1】（ハ）参照）で産科棟及び関連施設利用が住民に周知されたことも増加要因の1つと推察される。

指標	計画（変更後）	実施
2歳未満児の予防接種率	50.3%	65.2%
産後1週間以内に2回クリニックにて産後ケアを受けた母親	26.7%	42.6%

出典：ワールド・ビジョン聞き取り（2015年11月実施）

さらに新設した施設利用率は、産科棟、待機所ともに該当数の7割弱と高く、施設での出産も事業開始前の6割から終了時には9割強に増加している。出産介助についても、9割強が有資格者による介助となった。

指標	産科棟	待機所
新設施設の活用	68.7%	69.1%

指標	2013年		2015年	
	施設	自宅	施設	自宅
出産場所	60.3%	39.6%	93.4%	6.6%

指標	有資格	無資格	有資格	無資格
出産の介助	74.3%	25.7%	93.5%	6.5%

出典：ワールド・ビジョン聞き取り（2015年11月実施）

(4) 持続発展性

本事業最終年度にあたり、建設施設や設備の維持・管理につき、本事業終了後も活動を確実に継続・実施できるよう体制を強化した。(詳細は以下参照)。さらにンチシ県においては、ワールド・ビジョンが2007年より4つの柱(安全な水の提供を目指した水資源開発、乳幼児を中心とした感染症対策、子どもたちの栄養改善、保健ボランティア訓練)を中心とした自己資金事業(地域開発プログラム)を行っている。本事業終了後も必要に応じ、活動持続の観点から、母子保健対策の一環としてフォローアップする。

- ① 事業で建設した施設、設備はンチシ県の管理のもとに活動が維持されるよう、地域住民や関係省庁の参加のもと譲渡式を行い、啓発に努めた。
- ② 事業で使用した設備機器等もンチシ県保健省へ譲渡し、その活用・管理についても同県と別途、文書を取り付け、ンチシ県の管理のもとで活動が継続する体制を整えた。

### 3. 事業管理体制、その他

#### (1) 特記事項

本事業終了日まで6ヶ月未満である2015年7月、現地事業統括プロジェクト・マネージャーの退職に伴い、迅速に外部採用を行うことが困難であったことから、10月の同職新規採用までの2ヶ月半は内部スタッフ2名をプロジェクト・マネージャーとして派遣して対応した。

完了報告書記載日：2016年3月10日

団体代表者名： 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン  
理事長 榊原 寛 (印)



#### 【添付書類】

- ① 事業内容、事業の成果に関する写真
- ② 地図（マラウイ地図、ンチシ県事業地地図）
- ③ 完了報告書活動詳細
- ④ 譲渡式記事
- ⑤ 第1年次作成 啓発用ポスター3種
- ⑥ 日本NGO連携無償資金協力事業収支報告書
  - ・日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
  - ・日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
  - ・外部監査報告書